



【表1】

対象病害虫	残効期間※	ニカメイチュウ	ウンカ類	コブノメイガ	イネミスソウムシ	イネドロオイムシ	イネツトムシ	ツマグロヨコバイ	いもち病	紋枯病
農薬名										
バディート箱粒剤	約80日	○	○	○	○	○	○	○		
ピカピカ粒剤	約60日	○	○	○	○	○			○	
ルーチンアドスピノ箱粒剤	虫:約60日 病:約70日	○	○	○	○	○	○	○	○	
エパーゴルプラス箱粒剤	虫:約80日 病:約80日	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※残効期間はあくまで目安です。水田の状況により若干前後します。

ジャンボタニシ防除

今年も、暖冬であったことからタニシの越冬数が例年より多く、被害の拡大が予想されます。水中の濁りが澄んでからスクミノン粒剤を散布してください。スクミノン粒剤2〜4kg/10a当たり(2回)田植え直後から防除を行わないと、一晩でかなりの食害となります。(移植後3週間頃までが実害)散布後7日間は、落水やかけ流しをしないでください。

本田の準備

元肥は入水前に施用し、混和しておくことが重要です。代かきは、田植えの2〜3日前を標準としますが、砂質土では1日前、重粘土では3〜4日前と土質により考慮します。また、田植え前に箱施用剤を散布することで、今後の防除が省力化できますので必ず行いましょう。【参考：表1】

苗の準備

育苗中のかん水

緑化期以降は、根の呼吸が活発になります。この時期にかん水が多いと床土が過湿になり、根の呼吸が妨げられてマット形状が不良になります。育苗初期は午前中に1回充分に行い、苗が大きくなった後期は、1日1〜2回を目安に行います。夕刻のかん水は温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょう。また、風で育苗箱の隅が白く乾くので、板等で風よけを作るかその部分だけをかん水することがポイントです。



田植え前の準備

農業経営支援課 石田哲也